

I 事業の概要（地域の実情含む）

岩手町では、近年では大きな災害は起こっていないが、北上川の源流であり、水害は頻発しており、地域によっては避難勧告が出されることもある。

そこで、岩手町で過去に起こった災害（火山噴火、水害）について学び、岩手町での今後の災害の危険性について専門家からレクチャーしていただき、地域の今後の防災について考える契機とする。

さらに被災地域（岩泉町）を訪問し、実際の災害から学ぶとともに、ボランティア活動を行うことで防災への意識を高めるとともに、ボランティア精神の涵養につとめる。

II 取組の概要

（1）岩手町の過去の災害から学ぶ

ア 七時雨山の昭和初期の噴火や鳴動について知る （4月23日）

岩手大学地域防災研究センター客員教授土井宣夫先生が執筆された七時雨山の成り立ちに関する新聞記事を読み、本校が位置する丘陵も七時雨山噴火に関するものであることを学んだ。

昭和8年から昭和10年にかけて発生した七時雨山の噴火や鳴動に関する新聞記事をジグソー法で読みあった。



[七時雨山に関する新聞記事を読む]

イ 七時雨山と内陸地震について [出前授業]

（6月19日）

岩手大学地域防災研究センター客員教授土井宣夫先生に「七時雨山と内陸地震について」と題した出前授業をしていただいた。

立体斜度図を使って、七時雨山から沼宮内にかけての図形を把握した。スライドなどを用い、近年頻発している内陸地震から、「七時雨山附近にはまだ発見されていない活断層があるのではないか、その活断層がずれれば岩手町も大きな被害

を被る地震が起こる可能性がある。」という講義をしていただいた。



[立体斜度図を見る]



[断層はなぜずれるかを説明していただく]

ウ 岩手町の過去の水害被害を学ぶ（5月30日）

過去の新聞記事を用いて学んだ。平成22年7月と平成29年7月の岩手町の水害被害について、新聞記事を元に学習した。水害が起こった場所を白地図に書き写しどのような災害が起こり、地域の方がどのような行動を取ったのかを学んだ。岩手町のハザードマップを元に、今後ダムアップする可能性がある場所を考えることで、身近に災害の危険性があることを再確認することができた。



[白地図に危険箇所を書き込む]

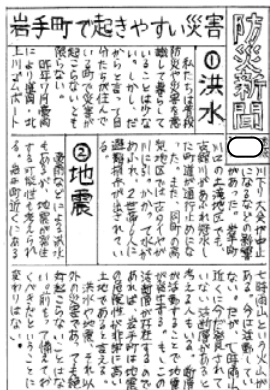
（2）他の地域の防災について知り、岩手町町民の命を救うために、効果的に伝える方法を考える。

ア 他校生の防災への取り組みを知る① [出前授業] （5月30日）

岩手町の水害を学んだあと、岩手日報社の金野訓子記者から、他県の高校生の防災への取り組みを紹介していただいた。そこから、自分たちの地域でも取り組みそうなことを考え、取り組むためにはどうしたらよいかを考えた。

イ 家族や友だちへ伝える（6月25日）

これまで学習してきた地域の災害の危険性や、防災への課題などを「はがき新聞」（はがきサイズの新聞）にまとめ、家族や友だちに伝えた。読んでいただいたあとは、わかりやすかった点とわかりにくかった点、もっと知りたいことなどを書いていただき、命を守るためにはどのようなことを伝えて行けばいいのかを考えた。



はがき新聞

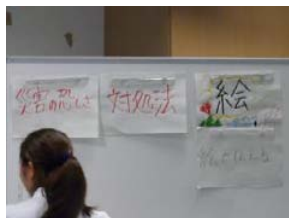
ウ 他校生の防災への取り組みを知る②

7月27日にいわて県民情報交流センター（アイーナ）で開催された第23回NIE (Newspaper In Education) 全国大会で、3学年が総合的な学習の時間の公開授業を行った。これまでの学習をふまえ、「岩手日報紙面に掲載された県内の高校生の防災への取り組みをジグソー法で読み合いまとめた。そこから自分たちは何ができるか、誰に伝えるのが最も効果的なのかを考えグループ内で話し合い、KP法で発表した。

多くの参観者の前で自分たちの取り組みを発表することができ、生徒たちが、自信をもつことができた公開授業であった。



〔発表している生徒〕



〔KP法を用いての発表〕

(3) 被災地から学ぶ

ア 平成28年台風第10号災害についての講演

(6月29日)

岩泉町への全校ボランティアにあたり、平成28年に岩泉高校校長（当時）、現千厩高校校長の茂庭隆彦先生から、岩泉町の地理、台風災害の様子、

発災後の高校生をはじめとする町の人たちの取り組みの様子などをご講演いただき、ボランティアへの意識を高めた。

イ 岩泉町全校ボランティア（7月1日）

岩泉町社会福祉協議会にご協力いただいて、岩泉町内での全校でのボランティアを実施した。昨年度、生徒会執行部からの提案で「被災地に取り組む沼高生」を生徒会のモットーとし、実際に被災地を訪れて被災地から学ぶことと、多くの生徒がボランティアに参加することを目的とし、全校でボランティアを実施することとなり、本事業により実現が可能となった。

午前中は、全校生徒が岩泉町小川支所で、台風第10号の被害の様子をお聞きした。また、校内で募金活動を行った募金を贈呈した。



〔募金の贈呈〕

1学年は安家地区の日蔭仮設団地、日蔭第2仮設団地及び安家小学校、2学年は岩泉地区の中野仮設団地と通所介護事業所どんぐり苑、3学年は小川地区の滝の上仮設団地に分かれて草刈りや窓ふきなどの作業を行った。移動途中には川沿いを通っていただき、台風被害の様子を見学した。



〔台風の爪痕見学〕

生徒たちは、仮設団地の方や社会福祉協議会の方々とお話する機会を得、当時の様子や現在の生活などを詳しくお話いただくことができた。また、実際に被災地に訪れたことで、災害の被害が想像以上に大きかったことを知り、自然への畏怖の念を抱くとともに、災害への備えを万全にしたいという思いを抱くきっかけになったようである。また自分たちの作業が少しでも仮設団地にお住まいの方などのお役に立てたことを実感することができた。



[草取り]

(4) 地域に伝える (10月13日)

本校の文化祭「沼高祭」で、生徒会執行部が中心となり、全校ボランティアの様子をスライドにまとめて発表した。発表にあたっては近隣の学校へ案内をした。また生徒会展示として全校生徒のボランティアの感想を展示した。



[文化祭での展示]

(5) 各種ボランティア、募金活動

ボランティア実施前に校内で岩泉町への募金を行い、ボランティア当日岩泉町社会福祉協議会へお渡しした。また、文化祭の会場で岩泉町台風第10号被害と西日本豪雨への募金を実施した。その際、生徒会執行部が本校の中庭で収穫されたブルーベリーからジャムを作り、岩泉ヨーグルトに添えたものをお振る舞いした。

また、地域から要請のあったボランティアや募金活動に多くの生徒が参加した。



[文化祭での募金及びヨーグルトお振る舞い]

Ⅲ 取組の成果と課題

(1) 成果

ア 継続した取り組み及び外部との連携

3学年は1年次に「いわての防災教育スクール」の指定を受け、様々な防災教育の活動に取り組んで来ている。昨年度は講演会を一度行っただけであるが、今年度はNIE全国大会と、本事業の2つを柱として、継続した防災学習の取り組みを行うことができた。

岩手大学地域防災研究センターや岩手日報社、岩泉町社会福祉協議会など多くの機関と連携して行うことができた。その中で生徒会の生徒を中心に、全校でボランティアをしたいという声があがり、今年度の活動につながった。

イ 被災地訪問

実際に被災地を訪れることで、生徒の自然災害や防災への意識の変化が見られた。生徒の感想の中にも、「家や身内を失った人たちの辛さや悲しみが、今回実際に岩泉町に行くととても伝わってきた。」「仮設団地の人たちは台風第10号の被害を受けても前を向いて生活していてすごいと思いました。」「避難先は本当に安全かどうかを確認した方がいいなと思いました。もっと防災について考えなければいけないなと思いました。」など、実際に現地を訪れたからこそ感じたことが多く書かれていた。このことから、フィールドワークがいかに重要であるかを改めて感じた。

(2) 課題

ア 3年間を見通した取り組み

3学年は3年間を通じた取り組みを行うことができたが、他の学年では十分な取り組みができていないと言いたい。教育課程に組み込み計画的に防災教育に当たること、各教科との連携などを通して学校全体の取り組みにしていく必要がある。また、生徒自身の気付きや問いをもとに、主体的に学びを深める探究型の学びにつなげて行きたい。

イ 命を守る活動

被災地訪問・ボランティア活動により生徒たちも防災の重要性を実感できたが、実際に本校の避難訓練の改善には至らなかった。生徒や職員の命を守ることができる避難訓練になっているか検証し、関係部署と連携し必要に応じて見直していかなければならない。

また、学校外においても命を守るための行動を生徒がとれるようにしていく必要があるだろう。

ウ 地域との連携

外部機関とは連携できたが、地元の岩手町役場などとは連携した活動ができたと言いたい。課題ア、イとも関連してくるが、校内での教科を超えた連携、地域との連携が必要であろう。例えば沼宮内地区の避難訓練に参加する、役場と連携した活動を行うなど、地域に根ざした高校だからこそできる連携の方法を模索したい。